

非婚化社会再考 —JGSS を用いた非婚者の特性の検討—

Reconsideration of non-married:
Analysis of attributes of non-married using JGSS

南 拓磨 (明治大学・院)

Takuma Minami (Graduate school of Political Science and Economics at Meiji university)

m_takuma@meiji.ac.jp

研究の背景

近年一つの社会問題となっていた未婚化・晩婚化問題は新たなステージへと進行しつつある。2015年の50歳時未婚割合(以下生涯未婚率)は男性で23.4%、女性で14.1%と未婚化・晩婚化社会の帰結としての非婚化社会がいよいよ現実として現れるようになってきた。しかしそのような状況の中で、非婚がなぜ起こるのかということについてはあくまで未婚化の分析の文脈の中でのみ語られ、非婚化それ自体の要因を分析した研究はほとんど行われていない。そこで本研究では非婚化社会をとりまく環境を記述し、その要因について一定の示唆を与えることを目標とする。

データと方法

本分析では日本版総合的社会調査(Japanese General Social Surveys: JGSS)の2000年版, 2001年版, 2002年版, 2005年版, 2006年版, 2008年版, 2010年版, 2012年版をプールして用いる。JGSSは全国を調査対象地域として大阪商業大学 JGSS 研究センター(文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点)が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。本分析では非婚をとらえるために対象者を50歳以上に限定する。50歳以上に限定した上で結婚状況について未婚と回答した場合に非婚状態に、それ以外の状態(現在、配偶者がいる・離別・死別・離婚を前提に別居中、同棲中)については結婚経験ありとし、二値をとる結婚状態の変数を作成し分析には二項ロジスティック回帰分析を使用する。

結果と考察

大会での報告に先立ち、作成したプールデータを用いて出生コーホート別の結婚状態を確認した。分析した。男性については出生コーホートの年代が上昇するにしたがって非婚の割合は増加しており、特に1940年～1944年出生コーホート以降急激に増加していることがわかる。また女性についてはほぼ横ばい状態となっている。加えて女性の非婚の割合の変化が少ないために1940年～1944年出生コーホートを境に男性と女性の非婚の割合が逆転している。

大会当日は、以上の結果を踏まえてより精緻な分析を行い、その結果について議論を行う予定である。

謝辞

日本版 General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学 JGSS 研究センター(文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点)が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。JGSS-2000～2008 は学術フロンティア推進拠点、JGSS-2010～2012 は共同研究拠点の推進事業と大阪商業大学の支援を受けている。